

大谷大学  
地域連携室  
事業報告書  
2020



## はじめに



大谷大学長  
木越 康 Kigoshi Yasushi

大谷大学で地域連携室が開設されて以来、これまでさまざまな地域連携プロジェクトが実施され、多くの学生たちが学びを深めてくれました。私も年度毎の区切りには学生たちから活動の報告を受けますが、地域へ飛び込み、人々との出会いの中で学びが深められていく様子を楽しみに伺っていました。

そのような貴重な学びの機会も、今年度はコロナ禍によって大きく制限されることになりました。人々と触れ合う中での学びが「地域連携室—コミュ・ラボ—」の生命でしたが、今年は、活気ある自由な活動の機会も大幅に減少したことでしょう。

ただ、今回のコロナ禍では、多くが「人と人のつながり」について考える機会を得ました。人が人と共に生活するうえで大切な「つながり」が、「密」を避けるという理由で距離を置かれたり断たれたりしました。この経験は、普段見過ごされてきた「つながり」の温かさや大切さを、私たちに教えてくれたのだと思います。夏休みや正月に帰省して家族に顔を見せることさえ叶わなかった学生たちが多くいます。おじいさんやおばあさんに会って手を握り、笑顔であいさつを交わすことすらできない日々が続いています。何気ない触れあい、時には煩わしいとさえ感じてしまう身近な人との対話も、今ではとても貴重であり、欠いてはならない大切なふれあいなのだと感じた一年です。

私たちはこの経験を決して無駄にはしてはいけません。難しい状況はいつ終わりを迎えるのかわかりませんが、この経験を生かした人と人をつなぐ地域連携の活動は、これから一層深められなくてはなりません。今年一年、本当にご苦労様でした。そしてこれからの皆さんのさらなる豊かな学びに、大いに期待します。



地域連携室長  
志藤 修史 Shido Shushi

2020年度は、日常生活に多大な影響を受け、多くの方が苦勞と痛みを感じた1年だったのではないのでしょうか。皆さまには心よりお見舞い申し上げますとともに、改めてこの難苦を受けとめ、共に立ち向かっていかねばならないという思いを新たにいたしております。

さて、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い地域連携室で取り組んでいるさまざまなプロジェクト活動が、自粛・停止を余儀なくされました。本来ならば、「出向く、向き合う、対話する」という一連の活動の中で、声や匂い、表情、さらには現場までの行程、周辺の雰囲気などから様々な情報を受け取り、プロジェクトで取り組んでいる研究実践の見返しや上乘せといった、フィールドでの学びの醍醐味を味わうはずでありました。

残念ながら、内容は著しく制限せざるを得ませんでした。しかし、リモートでのインタビュー、感染拡大の間隙を縫っての現地訪問、あるいは、接触を避けた活動の実施など、それぞれ工夫をおこない実施した活動もありました。また、この機会に活動の見直し、振り返りなどを進めたプロジェクトもあります。決してただただ佇んでいたわけではありません。このような事態の中での活動をまとめるにあたり、今年度の報告内容は、真理の探究に向け、従来の数倍もの内容を含んでいるものと自負いたしております。なお、関係いただいている地域や施設、事業所の皆様には様々ご心配いただきましたこと、また工夫を凝らした協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます次第です。

新たな年度の活動もまだまだ予断が許されるものではありません。今年度の経験を糧にさらなる一歩を踏み出していきたいと考えております。

どうぞ皆さまの温かなご指導、引き続きよろしくお願い申し上げます。

## 地域連携室について

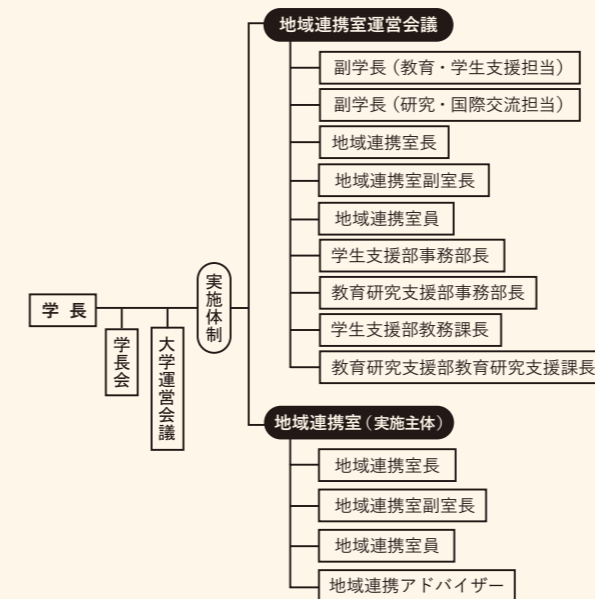
大谷大学では、2012年度から始まった「グランドデザイン」発表以降、これまで培ってきた自治体行政や地域団体、企業、NPO、多数の地域住民、卒業生などとの連携や社会への貢献活動の実績を踏まえ、「出向く・迎える」の相互の関係性を重視した積極的な教育・研究活動を展開し、社会に貢献しようという取り組みを進めています。

特に2014年以降は、地域連携・フィールドワークの取り組みを強化し、「学生が地域と接点を持ち、地域での活動への積極的な参加を通じて学習し成長」する能動的学習（アクティブラーニング）をコンセプトとした学びの充実を推進しています。2015年度には、実際に地域での活動を通じて、地域社会

の課題について調べ、地域や各機関の皆さんとともに考え、アクションを起こしていく活動としての「プロジェクト」をサポートする拠点として、地域連携室（コミュ・ラボ）を開設しました。

地域連携室（コミュ・ラボ）は、主に「プロジェクト」の企画・実施をサポートすること、地域連携プロジェクト同士の交流を推進すること、プロジェクトの成果を学内外に発信することを業務としています。今後も、地域と大学の相互交流の窓口となりつつ、大学教員や学生がその立場ならではの地域貢献をするなかで、学びを深めていけるようサポートしていきたいと考えています。

## 地域連携室 運営体制



地域連携室長 志藤 修史  
 地域連携室副室長 中野 加奈子  
 地域連携室員 渡邊 拓也 / 赤澤 清孝 / 大原 ゆい  
 地域連携アドバイザー 山田 大地

開室時間：月曜日～金曜日【事務休止日を除く】  
 9:00～11:30 / 12:30～17:00

場 所：響流館(こうりくかん)1階 教育研究支援課内

連絡先：電話 075-411-8015 FAX 075-411-8162  
 mail : commu-labo@otani.ac.jp

## 地域連携室 事業報告書



地域連携室では、年度毎に取り組みを事業報告書としてまとめ、発行しています。地域連携室のWebサイトならびに下記QRコードからアクセスし、PDFデータで閲覧・ダウンロードいただくことも可能です。



# コミュ・ラボこの一年

4月	●緊急事態宣言（学内への入講制限、対面授業の停止、オンライン授業の実施、学外フィールドワーク・実習活動の延期・停止）	
5月		
6月	●限定的な対面授業の再開 ●「コミュニティメディアプロジェクト」ラジオ収録・放送再開（P7）	
7月	●「祇園祭ごみゼロ大作戦」参加（P9）	
8月	●「駅ナカアート2020」地下鉄北大路駅 展示再開（P13） ●「中川学区の暮らし再発見プロジェクト」まんま茶® 収穫①（P5） ●「中川学区の暮らし再発見プロジェクト」北区民まちづくり提案支援事業採択	
9月	●「網野町海浜漂着プラスチックの調査・清掃活動プロジェクト」現地調査実施①（P15） ●「中川学区の暮らし再発見プロジェクト」健康ふれあい教室にリモート参加①	
10月	●「子ども・子育て支援プロジェクト」で子育て支援事業「いないいないばあ教室」実施①（P24） ●「中川学区の暮らし再発見プロジェクト」健康ふれあい教室にリモート参加② ●「中川学区の暮らし再発見プロジェクト」まんま茶® 収穫②	
11月	●京都知恵産業創造の森 京都産学公連携プラットフォーム会議に参画 ●「聞き取りを通じた多世代交流と社会調査（左京）プロジェクト」聞き取り実施（P11） ●「網野町海浜漂着プラスチックの調査・清掃活動プロジェクト」現地調査実施② ●「南丹市美山町平屋地区と大谷大学の学生との交流活動プロジェクト」聞き取り調査実施（P19） ●「子ども・子育て支援プロジェクト」で子育て支援事業「いないいないばあ教室」実施②	
12月	●「網野町海浜漂着プラスチックの調査・清掃活動プロジェクト」現地調査実施③ ●「中川学区の暮らし再発見プロジェクト」健康ふれあい教室にリモート参加③	
1月	●「中川学区の暮らし再発見プロジェクト」で共同開発しているクラフトビール「京都・中川まんまビア！」第2弾醸造・限定発売開始 ●「ニコニコ北っ子 北区こどものまち」にてこどもたちとワークショップ 実施①（P24）	
2月	●「ニコニコ北っ子 北区こどものまち」にてこどもたちとワークショップ 実施②	
3月	●「中川学区の暮らし再発見プロジェクト」で北山杉の里総合センターのイベント「森ヨガ」参加 ●「コミュニティメディアプロジェクト」フリーペーパー「キタキタ！キタ区キタ大路発のリトルプレス」Vol.4 発行 ●京都市と協定を締結、ふるさと納税を活用し地域と大学の連携を強化することを発表	

# 2020年度 プロジェクトレポート

## 目次

1	中川学区の暮らし再発見プロジェクト	P 5
2	コミュニティメディアプロジェクト	P 7
3	祇園祭ごみゼロ大作戦	P 9
4	聞き取りを通じた多世代交流と社会調査（左京）	P 11
5	駅ナカアート2020	P 13
6	網野町海浜漂着プラスチックの調査・清掃活動	P 15
7	古座川町平井地区ゆず農家の実態調査と支援	P 17
8	南丹市美山町平屋地区と大谷大学の学生との交流活動	P 19
9	ニコニコ北っ子 北区こどものまち	P 21
10	まちの居場所	P 23
11	北部福祉フィールドワーク	P 23
12	子ども・子育て支援	P 24
	メディア掲載・情報発信	P 25

-  活動場所
-  連携・協力先
-  活動期間
-  科目名（正課の場合）
-  参加学生

※本報告書内の学生の学年は 2021 年 3 月時点のものです。

# 1 中川学区の暮らし再発見プロジェクト

担当教員  
Shido Shushi  
志藤 修史



担当教員  
Nomura Minoru  
野村 実



## プロジェクトデータ

- 京都市北区中川学区
- 中川社会福祉協議会 / 特定非営利活動法人 HEROES (上京区)
- 2020年4月～2021年3月
- プロジェクト研究入門Ⅰ・Ⅱ、プロジェクト研究実践Ⅱ・Ⅳ、コミュニティデザイン演習Ⅰ
- 文学部社会学科 第4学年9名  
社会学部コミュニティデザイン学科 第1学年11名、第2学年16名、第3学年12名



中川の北山杉を背景に「まんま茶®」収穫後パチリ！

## プロジェクト概要

本プロジェクトは、2015年度から中川社会福祉協議会との連携事業として、「北区民まちづくり提案支援事業」の助成を受けて実施しています。

中川学区は京都市北部の山間地域に位置し、中川・杉阪・真弓という3つの地区があり、古くから林業で栄えてきた町です。しかし今では、住宅の様式が変化し、中心だった林業は衰退しています。少子高齢化が進み、商店や金融などは撤退。最寄りの病院やスーパーまでは車で20分以上かかる状況になっています。公共交通機関であるバスは中川集落のみ停留所があるのですが、杉阪・真弓には通っていません。自家用車中心の生活によって、人によっては外出が困難な状況となっています。一見すると「暮らししていくのは大変そう…」ととらえがちですが、決して大変だけでなく、そこ

にはかけがえのない地域の人たちが紡いできた自然の風土や文化、地域行事などへの思いなど、これまで作りあげてきた歴史や暮らしがあります。

本学では、このプロジェクトを通して、地域に暮らす人々の思いを大切に、地域の抱えている課題や、地域のこれからのことを共に考えていきたいと思っています。また、地域に残る伝統や文化の積極的な発信や、地域の資源を活用した新たな生活文化を創造するきっかけづくりなどにも取り組んでいきたいと思って活動をしています。山間の地域での暮らしのお話は初めて聞くことも多く、驚くこともたくさんあります。何度も地域を訪ね、お話を伺い、さまざまな活動を共有する中で、暮らしを知り、そして共に考えるという経験につながっていると感じています。

## 活動内容と成果

中川での大谷大学の活動も6年目を迎えましたが、今年はコロナウイルスの影響もあり、中川に足を運ぶことができなくなるということや、「and house.」\*1や「健康ふれあいクラブ」\*2は活動を計画するものの、実施できないことなどがありました。しかしコロナ禍においても、オンラインでの活動で新しい交流の仕方ができ、サロンや「京都・中川まんまピーア！」\*3などの活動内容の見直しをすることができました。

ゼミの中においても、自分たちがどんな目的で中川に行き、どんな活動を通して住民の方と関わっていくことがいいのか、と改めて考える機会となりました。

このような中、昨年度からは福祉事業所NPO法人 HEROES \*4との連携による、お茶を使ったビール「京都・中川まんまピーア！」の製造に取り組みました。また、学生が活動時に撮影した動画や写真をFacebookやインスタグラムなどのSNSを活用して発信し、中川を知ってもらうための情報発信としました。

活動の様子は「中川学区の暮らし再発見プロジェクト活動記録集 Vol.6」として冊子にまとめています。閲覧を希望される方は、地域連携室までお問い合わせください。



北山杉と共に生える茶葉を収穫。蒸して焙煎後、NPO法人 HEROES にてクラフトビールに醸造！



「健康ふれあいクラブ」にもオンラインで参加！  
支援事業認定



活動報告は、  
#otaniandhouse  
をご覧ください！



社会学部  
コミュニティデザイン学科 第2学年  
平尾 明日菜 Hirao Asuna

今年度まで「and house.」などのサロンや「まんま茶®」を使ったビール作りなどを行ってきましたが、コロナの影響もあり、地域の方との交流が薄くなってきていると感じます。来年度は、地域の方とお会いできなかった期間を取り戻せるように、ゼミと地域の交流を再度作り直していくことが出来ればと思います。



社会学部  
コミュニティデザイン学科 第2学年  
中島 里々子 Nakajima Ririko

今年度は楽しみに準備してきたものが活かせず悔しい思いをしました。昨年度の反省から力を入れていたため、良くない思い出が多く印象に残っています。ですが、こんな状況の中でも以前に企画したものを楽しく思ってもらい、学生がいなくても自主的に地域の方が集まっていたという話を聞いた時はとても嬉しかったです。来年度は嬉しい報告が沢山できるように、聞けるように活動していきたいと思えます。

\*1…旧小学校分校にて真弓地区にお住まいの方々と交流を目的に学生が企画・運営するサロン \*2…中川社会福祉協議会が主催する健康促進と交流の場づくり  
\*3…中川に昔からの姿そのままに伝わるお茶の木「まんま茶®」を原料にしたクラフトビール。学生が茶葉を収穫・提供し、売り上げの一部が中川での学生の地域活動に還元される。  
\*4…西陣(上京区)を拠点とし、西陣麦酒でのクラフトビール醸造を通じて自閉症の方々の就労・地域生活支援を行うNPO法人(理事長は本学卒業生の松尾浩久氏)。

# 2 コミュニティメディアプロジェクト

担当教員  
Akazawa Kiyotaka  
赤澤 清孝



## プロジェクトデータ

- 📍 京都市北区 北大路エリア
- 👥 特定非営利活動法人コミュニティラジオ京都 (北区)
- 📅 2020年4月～2021年3月
- 📖 プロジェクト研究入門I・II、プロジェクト研究実践II・IV、コミュニティデザイン演習I
- 👨🎓 社会学部コミュニティデザイン学科 第3学年16名、第2学年20名、第1学年20名



## プロジェクト概要

3学年の合同の演習として、大学のある北区北大路エリアの情報発信をテーマとしたプロジェクトを行いました。

北大路エリアは、京都市内中心部の京都駅や烏丸、河原町エリアに比べてタウン情報誌などのメディア掲載もありません。また北区には上賀茂神社、金閣寺などもあり周辺地域の情報は旅行雑誌などでも取り上げられていますが、北大路駅周辺は掲載が少ないというのが現状です。こうしたなか、学生が地域に密着した情報を取材し、発信に取り組むのがこのプロジェクトです。メインの対象層は、この地域で暮らす、働く、学ぶ若い世代です。この地域での生活歴が少なく、地域の情報を求めている層にインターネット等を通じて情報を届け、人やお店とのつながりづくりを促します。

2016年からはコミュニティラジオ局にて毎週1回の50分番組を放送。2020年度も継続して取り組んでいます。また、2017年8月に開設した地域情報サイト「キタキタ!」も継続して制作。この他、情報誌「キタキタ!」の第4号も制作しました。

これらの取り組みを通じて、学生が地域に埋もれていた面白いお店やイベント情報を知ること、地域の人の暮らしや仕事の面白さ、大変さなどを知ること、また、パソコンを使っての情報発信スキルや、対人コミュニケーションのスキル向上を図ることを目指しています。



キタ区  
キタ大路の魅力を  
発信中!



ラジオ「大谷大学ハッピーアワー!」  
毎週木曜日 19:00～19:52  
87.0MHz RadioMixKyoto で放送中!

## 活動内容と成果

ラジオ番組「大谷大学ハッピーアワー!」を毎週木曜日19時に放送。年間約50回放送し、地域の店主やNPOスタッフなど多数の方にゲストとして登場いただきました。

コロナウイルスの影響もありましたが、オンラインでの収録、放送を行うなど、感染対策を図りつつ、実施することができました。

また、地域情報サイト「キタキタ!」は後期のみの取り組みとなりましたが、コロナの影響が大きい飲食店を中心に取材を行い、約30件の記事を発信しました。情報誌「キタ

キタ!」第4号では、北区長、地域の事業者9名へのインタビューを行い、コロナ禍での奮闘ぶりを伝えました。これらの取り組みを通じ、学生たちと、地域の面白い若者、大人とのつながりが生まれた他、地域の人たちの様々な生き方、働き方に刺激を受けています。

また、学生たちは、番組や情報誌づくりなどに必要な企画力、チーム運営に必要なマネジメント能力を身につけ、ラジオ放送や取材を円滑に進める会話力(コミュニケーション能力)も身につけることができました。



毎週木曜 19時からの放送では、多くのゲストにご出演いただきました!



(左写真) 感染予防策を講じ、番組を放送しました。(右写真)「キタキタ!」の取材で地域の飲食店の方々にもお話を伺うことができました。



大谷大学  
ハッピーアワー!  
過去放送回はこちら



ウェブサイト  
「キタキタ!」  
はこちら

リモートでの  
収録・放送も  
行いました!



社会学部  
コミュニティデザイン学科 第1学年  
鎌田 康暉 Kamada Kouki

記事作成が初めてだったので不安はありましたが、他の人の取り組みも参考にしながら形にできてよかったです。電話やメールのマナーなど、これからの活動に活かせるスキルも学ぶことができました。



社会学部  
コミュニティデザイン学科 第3学年  
進士 凌希 Shinshi Ryoki

ラジオのゲストの方から自分とは違う考え方や意見をもらうことができ、ためになりました。コロナの影響でインタビュー音声の編集なども大変でしたが、新しいことへの挑戦を通じて成長できたと思います。

# 3 祇園祭ごみゼロ大作戦

担当教員  
Akazawa Kiyotaka  
赤澤 清孝



## プロジェクトデータ

- 📍 京都市中京区、下京区（祇園祭山鉾町）
- 👥 一般社団法人 祇園祭ごみゼロ大作戦（中京区）
- 📅 2020年7月15日・16日
- 👤 全学よりボランティア参加
- 👥 社会学部 コミュニティデザイン学科17名（第2学年17名）、現代社会学科3名（第3学年3名）  
文学部 歴史学科3名（第2～4学年各1名）、国際文化学科2名（第4学年・第2学年各1名）



## プロジェクト概要

世界有数の伝統祭事である祇園祭。祭の山場となる山鉾巡行前の宵山行事期間中は、多くの夜店・屋台が四条烏丸を中心に広範囲で立ち並び、国内外から多くの来場者が訪れます。しかし、来場者数に比例して課題となるのが、紙やプラスチック容器などの廃棄物でした。以前に比べ散乱ごみなどは減ったものの、可燃ごみの量は増える一方でした。そこで2014年、NPO、行政、夜店や屋台、ごみ収集事業者などの協力のもと、使い捨て食器を、繰り返し洗って使用可能なリユース食器に切り替える「祇園祭ごみゼロ大作戦」を実施しています。学生の参加は、正課授業を受講し、その一環として参加、ボランティアとしての参加の2つの形態が

あります。授業では、祇園祭の歴史、ごみ問題、環境問題に関わる市民活動の実例など、多様な視点から「祇園祭ごみゼロ大作戦」の背景やこれまでの成果について学び、その上で宵々山・宵山当日の活動に参加し、リユース食器の回収やごみの分別を促す活動に参加し、活動の参加の感想や改善案をレポートにまとめることを計画しています。



## 活動内容と成果

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、2020年度の祇園祭は山鉾巡行・及び関連行事（宵山等）が縮小や中止となりました。これに伴い、祇園祭ごみゼロ大作戦の活動も縮小し、感染予防をしっかりと行いつつ、今年はまちなかのクリーンアップ活動を実施しました。大谷大学からは25名の学生が参加し、ごみ拾いなどに汗を流しました。

次年度に向けては、例年どおり祇園祭が実施される場合は、昨年度同様、正課授業及び、ボランティアという形で、広く参加を募っていきます。



祇園祭をみんなできれいにしよう！



コロナ禍でも多くの方々と共に活動ができました！



鉾町を2日間にわたりくまなく周り、ゴミを回収しました。



活動の成果が出てます！

ボランティアの力で  
祇園祭を美しく！



社会学部  
コミュニティデザイン学科 第2学年  
小島 みずき Kojima Mizuki

今年は、まちなかのごみ拾いを行いました。人通りも少なく、ゴミも少なかったです。それでも、駐車場の隅などにタバコの吸い殻などが落ちており、祭以外の生活ごみの問題について考えさせられました。



社会学部  
コミュニティデザイン学科 第2学年  
松山 夏央 Matsuyama Natsuo

今年は、例年のような活動ができなかったのは残念でしたが、このような形でも祇園祭の一部に参加できてよかったです。次年度は、多くの人手で賑わうなかで、ごみゼロ活動ができればいいと思います。

# 4 聞き取りを通じた 多世代交流と社会調査(左京)

担当教員(代表)  
Watanabe Takuya  
渡邊 拓也



徳田 剛 Tokuda Tsuyoshi  
古谷 伸子 Koya Nobuko  
阿部 友香 Abe Yuka  
本林 靖久 Motobayashi Yasuhisa

## プロジェクトデータ

- 📍 京都市左京区
- 🏠 京都市左京西部・東部いきいき市民活動センター(指定管理者:特定非営利活動法人 劇研)
- 📅 2020年4月~2021年3月
- 👥 社会学部現代社会学科 探究フィールドワーク1・2
- 👥 社会学部現代社会学科 第3学年 11名



## プロジェクト概要

地域連携パートナーの京都市左京西部・東部いきいき市民活動センター(以下いきセン。指定管理者:NPO 法人劇研)と共に、学生たちが聞き取りを中心とした社会調査(フィールドワーク)を行い、京都市街地にありながらも高齢化が進む地域の抱える諸問題について考えます。

調査先の地域では、アートやイベントを通じて多様な人々を結びつけるための、積極的な試みがなされています。いきセンは、市民サークル等への貸館事業を営みながら、地域の高齢者への聞き取り活動(地域回想法)、演劇・音楽・ダンスといったアート活動を通じて、人々の交流を促す仕掛けを実践しています。盆踊りや夏祭りといったイベントの企画・運営も、地域内外の若者や外国からの移住者も含め、バリエーションに富んだ人々の交流を生み出す機会を提供しています。

学生たちは、いきセンの活動に自らも参加することで、

地域の方々と交流し地域貢献をなしつつ、地域社会および市民活動の現状と課題についての理解を深めます。また他方で、自分たちで立案した社会調査を実践することで、調査倫理やコミュニケーション能力を含む応用的な調査スキルを身につけます。さらにそれを年度末の報告書へのまとめていく作業の中で、調査データをどう取り扱い、社会的な見地からいかに考察していくかに関する実践的な理解を深めていきます。調査結果をまとめた報告書は、いきセンおよび調査にご協力いただいた地域の方々にお渡しして、地域社会へのフィードバックがなされます。



コロナ禍の中での地域活動について貴重なお話を伺いました。



コロナ禍が収束した後の地域づくりに向けた貴重なお話をお聞かせいただきました。



左京いきいき  
市民活動センター HP  
← 東部 西部 →



左京いきセンでは、  
アート活動を通じた  
交流づくりが盛んです!

## 活動内容と成果

今年度は、新型コロナウイルスの影響により、またいきセンともご相談の上、前期期間中の現地(学外)での活動は休止としました。前期はその代わりに、フィールドノートの取り方、聞き取り録音データの文字起こし等、実際の調査時に必須となる基本スキルのトレーニング(教員・学生間の UNIPA でのファイルのやりとりや Microsoft Teams を用いたオンラインでの指導)を行って、後期への準備を整えました。

夏季休暇中は、例年参加していた地域の盆踊りや夏祭りが休止となり、学生たちは現地を訪れる機会のないまま後期開始を迎えました。

後期はいきセンの全面協力の下、ちょうどコロナ禍の谷間が訪れた2020年11月に、マスク着用、手指消毒、部屋の換気、社会的距離などのコロナ対策を十分に行った上で、いきセン内の和室・会議室等で対面での聞き取り調査が実現しました。今年度の調査テーマは「新型コロナウイルスの地域社会への影響」についてで、11名の学生が4班に分かれ、いきセンスタッフを中心とした7名の方々に調査を実施し、その成果を「探究フィールドワーク報告書」にまとめました。



社会学部  
現代社会学科 第3学年  
西川 峻平 Nishikawa Shunpei

いきいき市民活動センターに実際に行って聞き取り調査をしてみて、高齢世代と若い世代をつなぐ事業を開催し、互いに住みやすい街づくりをするのがイベントを運営する意味だと知った。コロナが流行した2020年を無駄な一年にせず有効活用し、来年以降のイベント開催に向けての実験を行っている。新しい挑戦をし、また前進しようとするいきいき市民活動センターの職員さんに直接話を聞けるいい機会をこの授業で得られて良かった。事前準備をしっかりとして、聞きたい質問をすべて直接聞いて良かった。



社会学部  
現代社会学科 第3学年  
山田 恵万 Yamada Ema

この授業では聞き取り調査や文字起こしなどを行い、他の座学の授業ではできない貴重な経験ができた。初めて「聞き取り調査」というものを行い、とても緊張したが、同じ班のメンバーや先生方のおかげで上手く聞き取ることができたと思う。文字起こしについては、量が多く聞き取るのが大変で綺麗にまとめることに苦労したが、それも良い経験だった。1年間を通してこの授業を行ったが、他の授業とはまた違った良さがあり、今後にも活かしていきたいと思う。

# 5 駅ナカアート2020

担当教員  
Matsukawa Takashi  
松川 節



担当教員  
Kuramitsu Nobuyuki  
倉光 延行



## プロジェクトデータ

- 京都市営地下鉄・北大路駅（駅での展示）
- KYOTO 駅ナカアートプロジェクト2020実行委員会
- 2020年3月24日～10月31日（12月3日まで大学内でも展示）
- メディア表現学演習 IV-1、コミュニティデザイン演習 III-4
- 文学部人文情報学科 第4学年 12名・社会学部コミュニティデザイン学科第3学年 12名  
社会学部コミュニティデザイン学科 有志 2名



## プロジェクト概要

「KYOTO 駅ナカアートプロジェクト」は京都市内の芸術系大学が中心となり、大学生のアート作品で地下鉄駅を装飾し、地下鉄を魅力的なものとして活性化することで、活力ある京都のまちづくりをめざすもので、2013年度に開始されました。大谷大学は、大学の地域連携の一環として2016年度より参加しており、今回は4度目です。



多くの皆様楽しんでいただけました。



魚の集合体アートがテーマです！

## 活動内容と成果

今回のプロジェクト統一テーマは「アートあふれる駅」ということで、大谷大学としては、「魚の集合体アート」を展示しました。地下鉄を利用する「人」はそれぞれ向かう先は違えども、行き先は変わらない様子を「魚」を用いて表現しました。人文情報学科の特徴を出す方法として「3Dプリンター」を利用し、物語の「スイミー」を参考に表現してみました。小さな力でも集まれば大きな力となって大きな困難にでも立ち向かうことができる、そのような考えが作品を通じて伝わることを目指しました。また、駅ナカアートプロジェクトのPR映像を制作しました。

### 1) PV（メイキングムービー）

制作に打ち込む学生達の様子を中心に、環境の違う様々な大学の学生達の「アート」という一つのキーワードの元での繋がりを、一冊のスケッチブックを通して表現しました。

### 2) 作品紹介ムービー

2020年のKYOTO 駅ナカアートプロジェクト動画もスケッチブックリレー形式で各大学の活動を紹介しています。本作品は、スケッチブックをめくりながら各駅の展示作品とアートパスのようすを見ることができるよう制作しました。

2020年2月10日にプロジェクト作品構想意見交換会に参加し、プレゼンを行いつつ、参加各大学と意見交換をしました。2月から3月にかけて、参加各大学を訪問して制作風景のメイキング取材・撮影を実施しましたが、3月中旬より新型コロナウイルスの影響で各大学の閉鎖が始まり、作業は中断しました。7月から段階的に作業を再開し、8月27日～12月3日まで北大路駅や大谷大学構内にて作品展示、メンテナンス、追加取材（市内各地にて撮影ロケ）を行いました。



京都市営地下鉄 北大路駅を作品で彩りました。



作品が見えやすい位置となるよう工夫しました。



3Dプリンターを用いて作品を制作しました。



各大学の作品メイキングPVはこちら！



各大学の作品紹介PVはこちら！



京都市より感謝状が授与されました！



文学部  
人文情報学科 第4学年  
小谷 悠太 Kotani Yuta

今年度は新型コロナの影響もあり、当初の計画から大きく変更することになりましたが、夏休みなどの空き時間にゼミ生が集まり、作品のテーマである『スイミー』のように各々の力を合わせて北大路駅を彩ることができました。協力していただいた方々に深く感謝します。



文学部  
人文情報学科 第4学年  
河本 丸匠 Kawamoto Marumi

今年の作品は統一感と個性を出しつつ、見た人が分かりやすいデザインを考え、『スイミー』をテーマに作成しました。カラフルな魚を人に、水中を地下に見たことで地下鉄を利用する人を表現しました。



# 6 網野町海浜漂着プラスチックの調査・清掃活動

担当教員  
Suzuki Hisashi  
鈴木 寿志



## プロジェクトデータ

- 京都府京丹後市 網野町
- 京丹後市網野町地域おこし協力隊、京丹後市夢まち創り大学
- 2020年9月14日・11月5日・12月10日
- コミュニティデザイン演習 Ib-5、プロジェクト研究入門 I-5、プロジェクト研究実践 II-5、IV-4
- 社会学部コミュニティデザイン学科 第1学年5名、第2学年4名、第3学年7名



## プロジェクト概要

海を漂うプラスチックゴミは、世界規模で進行する深刻な環境汚染問題として、国際的に関心が高まっている。日本では、例年冬の季節風で掃き寄せられた大量のプラスチックゴミが、とくに日本海側の海岸に漂着する。

京都府京丹後市網野町の海岸においても、大量のプラスチックゴミが漂着するとともに、細粒化し海浜砂にまみれている。網野町には琴引浜という鳴砂の浜が広がっており、綺麗に磨かれた砂がキュッキュと音を立てる。しかしゴミが混ざり砂が汚染されると、鳴かなくなってしまうという。そのため地元の人々は、以前から琴引浜の清掃活動に熱心に取り組んできた。

琴引浜は名勝地であり天然記念物に指定されているため人の手が入りやすいが、それ以外の浜では大量のゴミが放置されている。細粒化したプラスチックは海へ戻って浮遊し、

魚が飲み込む。プラスチックは有機系化合物を吸着しやすいため、生態系に影響を与え、ひいては人の体内に蓄積する可能性がある。これらの地域課題・環境問題を解決するにあたって、海岸の清掃活動を行うとともに基礎調査を実施し、課題解決に向けた道筋をつけることを目的とした。

2020年度は新型コロナウイルスの蔓延に伴い、京丹後市の行政からは、人と接する活動を自粛して欲しいとの要請があった。そのため、宿泊をせずに日帰りで活動すること、極力地元住民と接しないことに留意して活動した。また活動前1週間の健康観察を各自行った。そのような制限下にあっても、網野町地域おこし協力隊の八隅孝治氏と(株)ジオ研究開発の榎本 晋氏の協力を得て、現地で活動できたことは、学生たちにとって大きな経験と学びの機会となった。

## 活動内容と成果

基礎研究として、次の調査を実施した。(1)小浜における海浜漂着ゴミの由来調査、(2)海中浮遊マイクロプラスチックの調査、(3)琴引浜、小浜、八丁浜における海浜砂中のマイクロプラスチック調査、(4)魚内臓に含まれるプラスチック類の調査。その結果、ペットボトルなど国の由来が分かるゴミについては、日本、中国、韓国のものでほぼ占められること、日本由来のペットボトルは決して少なくなく、24%~47%に達することが明らかとなった。海中を漂うマイクロプラ

スチック片については、大きさ1mm程度の微小プラスチック片、発泡スチロール片、漁具の網や糸くず片が採集された。また、海浜砂に含まれるマイクロプラスチックについては、ほぼ砂浜表面にとどまり、砂体深くには埋没していないことが分かった。そして遊漁港で釣った24尾の魚のうち、2尾の魚の内臓からプラスチック片が検出された。これらの基礎研究を通じて、網野町の海洋・海浜環境を改善する取り組みを具体的に考えていきたい。



海浜での細粒化したプラスチックの調査



小浜マブ川河口での清掃活動



海浜清掃では2tダンブ約2杯分のゴミを回収しました。



プラスチック片にまみれたカエルが見つかりました。

2尾からプラスチック片が検出されました。



社会学部  
コミュニティデザイン学科 第2学年  
岡崎 真実子 Okazaki Mamiko

私は網野町の海岸を訪れ、問題の深刻さを実感しました。プラスチックゴミの漂着問題というと、どうしても海外からのゴミが目がいきますが、日本のゴミも多く含まれていました。改善するためにはまず国内から変わらなければならぬと思いました。



社会学部  
コミュニティデザイン学科 第1学年  
後藤 信之介 Goto Shinnosuke

私は網野プロジェクトで趣味の魚釣りで得た経験や知識を活かすことができました。網野の海に生息している魚からマイクロプラスチックを検出する実験では、現地で釣った魚を捌き内臓を採取する作業を担当しました。これは他のゼミ生から大いに感謝され、達成感を感じました。

# 7 古座川町平井地区ゆず農家の 実態調査と支援

担当教員  
Suzuki Hisashi  
鈴木 寿志



## プロジェクトデータ

- 和歌山県 東牟婁郡 古座川町 平井地区
- 農事組合法人 古座川ゆず平井の里 / 北海道大学 和歌山研究林 (和歌山県 古座川町)
- 2020年6月3日・12月17日
- コミュニティデザイン演習 Ib-5、プロジェクト研究入門 I-5、II-5、プロジェクト研究実践 I-5、II-5
- 社会学部コミュニティデザイン学科 第1学年3名、第2学年13名



## プロジェクト概要

和歌山県古座川町平井地区ではゆずの栽培が盛んに行われている。農事組合法人古座川ゆず平井の里は、栽培のみならず、ゆずを用いた商品開発、加工・製造までをこなし、山間地の小さな集落にあって、六次産業化に成功した例として知られる。

しかし、そのような平井地区でもゆず農家の高齢化の波は押し寄せており、ゆずの収穫期に当たる11月はとくに繁忙となり、人手が不足し収穫できないゆず畑があるという。そのような畑を放置すると、猪などの野生動物が出没して畑を荒らされる原因となる。このような現状から11月の繁忙期に収穫の手伝いをし、山間集落の実態を把握することを目的とした。

しかし、2020年度は当初から新型コロナウイルスの蔓延による訪問自粛が続いていた。11月にはどうにかして訪れようと

したが、新型コロナウイルス第3波の到来で不可能となった。結果として2020年度は一度も古座川町を訪れることはできなかった。しかし、古座川ゆず平井の里からは、親切に収穫したゆずを一箱送って下さった。同平井地区にあり、宿泊等の連携をお願いしていた北海道大学和歌山研究林からは、古座川の自然と研究林での研究活動についてオンライン講義をしていただいた。

2020年度は一度も現地を訪れることができなかったが、古座川のゆずで料理を楽しみ、古座川の自然について学ぶことができた。現地を訪れずとも古座川について知ることができ、次年度へと繋げることができたのではないかと思う。



## 活動内容と成果

2020年度は現地を訪れることができなかったため、6月3日に農事組合法人古座川ゆず平井の里の倉岡有美さんにオンラインでのインタビューを実施し、平井地区の現状についてうかがった。

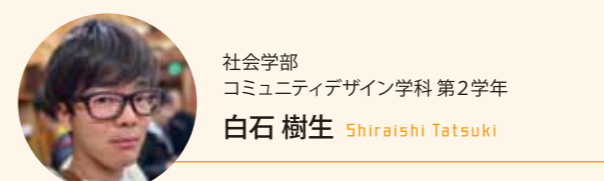
また、11月に贈って下さったゆずを用いて、学生たちは各々ゆず料理に挑戦した(上記写真)。作った料理について、レポートにまとめるとともに、その内容を含めて倉岡さんへお礼の手紙を送った。12月17日には北海道大学和歌山研究林の中村誠宏教授にオンライン講義をしていただいた。その中で、研究林での研究活動とともに、古座川町への移住者の取り組みについても紹介があり、来年度以降ぜひ現を訪れて学びを深めたいと感じた。

なお写真には、2019年12月に予備調査として平井地区を訪れた際の様子を一部掲載する。

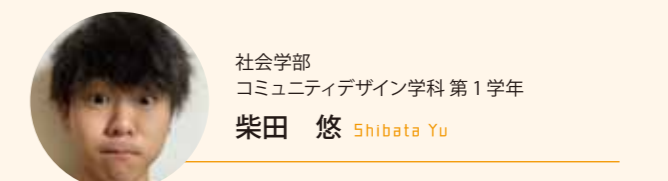


平井の里で栽培されているゆず

北海道大学 中村誠宏教授のオンライン講義を受講しました。



一昨年12月に予備調査で古座川町を訪れました。私が現地で感じたことは、自然の美しさとそれを上手く活用している所が素晴らしく思いました。少数だからこそ地域の団結力が魅力的であり、それぞれが支え合う関係を自分たちにも活かしたいと思います。



今年度は現地を訪れることはできませんでしたが、オンラインインタビューや文献で古座川町のことを知ることができました。実際にゆずを送ってもらい、調理しておいしくいただくことができました。また文献で養蜂が盛んなことを学び、そうした仕事があることを初めて知りました。



# 8 南丹市美山町平屋地区と大谷大学の学生との交流活動

担当教員  
Shido Shushi  
志藤 修史



担当教員  
Nomura Minoru  
野村 実



## プロジェクトデータ

- 南丹市 美山町 平屋地区
- 南丹市 美山町 平屋地区 地域福祉推進協議会 / 南丹市 社会福祉協議会
- 2020年7月～11月
- プロジェクト研究入門Ⅰ・Ⅱ、プロジェクト研究実践Ⅱ・Ⅳ、コミュニティデザイン演習Ⅰ
- 社会学部コミュニティデザイン学科 第1学年1名、第2学年1名、第3学年2名



## プロジェクト概要

本プロジェクトでは、過疎高齢化の進む南丹市美山町の生活実態と課題および住民活動を学び、グループ活動を通じて学習研究を深めることを目的に、平屋地区地域福祉推進協議会、南丹市社会福祉協議会の皆様と共に取り組んでいます。学生による高齢者宅等への訪問活動や、平屋地区の高齢者との交流を目的とした「ふれあいカフェ」の開催、2018年度から実施している高齢者の移動・交通に関する調査など、プロジェクト内でも複数のテーマに分かれて活動を行っています。

また2019年度は、平屋地区と同じ美山町にある鶴ヶ岡地区の「ムラの駅たなせん」を訪問し、高齢者向けの買い物支援

「ふるさとサポート便」や、無償移送サービスに関する聞き取り調査を行いました。こうした、実践に取り組む主体へのインタビュー調査は、買い物弱者問題に興味・関心のある学生にとって、具体事例から学ぶ機会となり、各自の個人研究や卒業論文に向けた期末レポートの執筆につながっています。



## 活動内容と成果

今年度の活動は、新型コロナウイルスの感染拡大による影響を受け、規模を大幅に縮小して実施することとなりました。2020年7月頃から、地域の皆さまと大学にとって、この状況下でこういった活動ができるかを慎重に議論してきた結果、2019年から平屋地区で取り組まれている「お出かけツアー」の利用者インタビューに限定した活動ならば実施可能ではないかとご提案いただきました。

平屋地区の皆さまのご協力のもと、2020年11月16日に「お出かけツアー」の登録者と運転手の方にインタビュー調査を実施することができました。また参加できなかった登録者の方には地域福祉推進協議会を通じてアンケートを配布していただき、コロナ禍ではあっても「買い物」は人々の日常生活、ひいては生命の維持に関わることであり、改めて認識する機会となりました。

また、訪問の1ヶ月前には、地域福祉推進協議会と南丹市社会福祉協議会の皆さまに大谷大学にお越しいただき、団体の概要や平屋地区での取り組みを共有いただくとともに、学生とのディスカッションにも参加いただきました。今年度は現地での活動に参加できる学生が限られていたため、平屋地区の皆さまと大学で交流できたことは、非常に有意義な機会となりました。

なお、美山町での活動の様子は別途、2020年度の報告書としてまとめています。閲覧を希望される方は、地域連携室までお問い合わせください。



買い物や移動支援についてなど、多くのお話をお聞かせいただきました！



平屋地区での支援活動の経緯や現状について、貴重なお話をお聞かせいただきました。



京都 美山  
平屋振興会 HP は  
こちら！

ゲストスピーカーとして  
お話をいただきました！



社会学部  
コミュニティデザイン学科 第3学年  
下岸 由宜 Shimogishi Yoshinobu

今回は、買い物事情について直接知る機会になりました。多くの方が生協を利用しつつ、車を使ってスーパーへ向かわれていることが分かりました。高齢化がさらに進む中で、車以外でのアクセス手段の確保が課題であると痛感しました。



社会学部  
コミュニティデザイン学科 第1学年  
徳山 佳哉 Tokuyama Yoshiya

今回フィールドワークに参加し、住民の方から地域の現状や課題を聞くことができ貴重な経験になりました。また、コロナ禍による生活への影響や買い物の現状などもわかりました。これからも調査に限らず交流を深め、より多くのことを学びたいと思います。

# 9 ニコニコ北っ子 北区こどものまち



担当：大谷大学 地域連携室

## プロジェクトデータ

- 大谷大学ほか
- 北区未来につながる区民会議 / 京都市北区役所
- 2021年 1月30日、2月13日
- プロジェクト研究実践II (一部)
- 文学部教育心理学科 第4学年7名 (有志)、社会学部コミュニティデザイン学科 第2学年1名



## プロジェクト概要

第5回目を迎えた「ニコニコ北っ子 北区こどものまち」は、こどもたち自身で「自分たちのまち」を創造する体験型イベントです。こども同士がどのようなまちであればみんなが「ハッピー」になれるかを話し合い、大谷大学を会場に自分たちで考えた仮想のまちを実際につくります。そこに、ゲストのこどもたちを迎えて、2日間にわたりこどもたちだけでまちを体験します。

本イベントは、2016年度から北区未来につながる区民会議（事務局：京都市北区役所）が実施してきました。第2回目からは、本学4・5号館を会場に、文学部教育・心理学科の学生たちが、こども同士の対話や主体性、自由なアイデアを引き出す「チャイルド・ファシリテーター」(CF)として参加し協力してきました。2019年度からは、本学と北区役所との間で締結した「はぐくみ文化」の創造・推進に関する覚書に基づき、地域連携室の所管のもと、CFを全学からボランティア募集する形に広げ実施に協力しています。

CFは、イベント開催に向け行われる「こども会議」(企画スタッフでの参加を希望したこどもたちによるイベント準備会議)でファシリテーションを行います。こどもたちは、学生とともに、どのようなお店や役割があれば、まちやみんなは

「ハッピー」になるか、アイデアを出し合います。そして、出たアイデアを看板などを制作して具体化し、自分たちが考えたオリジナリティあふれるユニークなお店や、区役所、税務署といった自分たちの「まちに必要なもの」のブースをつくりま

す。本番当日は、本学4・5号館全体にブースを設置し、150名を超えるゲストのこどもたちを北区から迎えます。そこで2日間にわたり、こども同士が自分たちが考えたお店で、仮想のまち独自の通貨「ドキ」を介しながらやりとりします。その過程でまちを守りハッピーにするために必要な役割やルールを考え、お店での売買や賃金、税金の働き等を体験することを通じ、まちを成り立たせている仕組みを体感します。



2018年「北区こどものまち」のようす



## 活動内容と成果

今年度の「北区こどものまち」は、新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため、上記イベント形式での実施を避けることとなりました。その代わりに、昨年度参加していたこどもスタッフと学生とで、「北区こどものまち」を室内でも体感できるオリジナルボードゲームづくりのためのワークショップをオンライン上で行うこととなりました。

11名の小学生とチャイルド・ファシリテーター7名が大学と各家庭とをオンラインでつなぎ、延べ2日間にわたりボー

ドゲームで重要な役割を果たす「まちをハッピーにする」お店や役割カードのアイデアを考えました。オンラインワークショップのようすは、広報担当の学生が、SNSで随時発信しました。

今回のワークショップで出されたアイデアやイラストは、ボードゲーム制作会社「HOX社」(京都市中京区)が製品に落とし込み、みんなまで遊べる機会を設ける予定です。



みんながハッピーになるまちをつくらう!

まちづくりボードゲームをつくらう!  
今年はオンラインで、こどもたちとワークショップをしました!



CF(チャイルド・ファシリテーター)として、こどもたちの意見や発想を引き出すファシリテーションをしました!



facebookでワークショップの様子を発信しました!

完成まで  
ごうご期待!



※デザインは、変更される場合があります。



文学部  
教育・心理学科 第4学年  
山崎 夏碧 Yamazaki Natsumi

今年はオンラインでの開催でしたが、こどもの思いを形にすることが出来て良かったです。また、オンラインの良さを感じると共に難しさを実感しました。どの場面でもこどもが興味を持ち、考えを深め広げられる言葉かけはこれからも課題です。



社会学部  
コミュニティデザイン学科 第2学年  
館野 芽生 Tateno Mei

私は、昨年から引き続き広報担当として参加させていただきました。今回はオンライン、2回だけのこども会議でしたが、様々なアイデアが集まり、こどもたちの発想の幅広さ、柔軟さを実感しました。SNSでぜひたくさんの方にチェックしていただきたいです!

# 10 まちの居場所

担当教員  
Nishimura Takeo  
西村 雄郎



担当教員  
Ohara Yui  
大原 ゆい



## プロジェクトデータ

- 📍 京都市北区
- 🤝 社会福祉法人七野会 / 社会福祉法人 リガーレ暮らしの架け橋 / 新大宮商店街振興組合
- 📅 2020年4月～2021年3月
- 🎓 文学部社会学科地域政策学コース専門科目、社会学部コミュニティデザイン学科地域政策学コース専門科目
- 👥 文学部社会学科 第3学年1人、社会学部コミュニティデザイン学科 第3学年6人、第2学年10人、第1学年1人

## プロジェクト概要

まちの居場所プロジェクトは地域の社会福祉施設の皆さんと協働しながら、地域の居場所づくりを進めています。

いま地域福祉実践の場面では、「地域共生社会」がひとつのキーワードとなっています。そして、多様な背景を持つ人々が関係を紡ぐ「居場所」づくりも盛んに取り組まれています。ここで目指されるのは地域に暮らす誰もが、ともにケアしあいながら、気づかいあいながら生きる社会です。

どのような状況にあっても、住みなれた地域で、自分らしく暮らし続けるためには、保健、医療、介護のサービスだけではなく「居場所」や「つながり」の活動が必要となるのではないかと考えます。そしてこれは誰か特別な人に限ったことではなく、子どもも大人も、障害のある人も、ない人も、地域に暮らすすべての人にとって「あったらいいな」と言える場所・活動なのではないでしょうか。

そこで、このプロジェクトでは、住民団体や地域を支える専門機関、大学とが連携をして、学区で暮らす誰もが参加できる「場」と「活動」をつくり、地域やまちづくりに貢献

することを目指しています。この活動を通じて、地域で今後さらに大切になってくると考えられる「人と人のつながり」や、さまざまな立場におかれた人の「居場所」の今日的なあり方について実践を通じて考えていきたいと思っています。

## 活動内容と成果

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、連携機関とも調整し、従来の高齢福祉施設での活動は休止としました。福祉施設での活動が困難であったため、今年度は「まちの居場所」としての商店街の役割や、若者の居場所についての実態調査を行うための事前学習、およびオンライン調査の準備に取り組みました。このような準備状況を踏まえ、次年度は、現地でのヒアリング調査、オンラインを活用した調査および分析を行いながら、いまの地域社会に求められる「まちの居場所」のあり方を考えるとともに、居場所づくりの実践に向けた活動もはじめていきたいと考えています。

# 11 北部福祉フィールドワーク

## プロジェクトデータ

- 📍 京都府北部自治体
- 🤝 京都府
- 📅 実施せず

担当教員  
Nakano Kanako  
中野 加奈子



担当教員  
Kamatani Isahiro  
鎌谷 勇宏



## プロジェクト概要

本プロジェクトは、京都府北部地域で多様な地域実践を展開している自治体において、地域を基盤としたソーシャルワークの実践を学ぶことを目的としたフィールドワークである。



京都府北部福祉フィールドワーク  
紹介動画はこちら ▶▶▶

## 活動内容と成果

2020年度の北部フィールドワークは新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受けて、実施できなかった。2019年度までの本フィールドワーク参加者の中には、2回生、3回生時に連続して参加し、地域の特性に根ざした実践の豊かさを学んできた。それだけに、本年度実施できなかったことは残念でならない。

ただ、本フィールドワークをきっかけに北部地域で就職することを決意した者もあり、本フィールドワークが学生の学びに与える影響は大きい。次年度には感染対策を講じながらなんらかの方法で実施できないか検討したい。

# 12 子ども・子育て支援

担当教員(代表)  
Tomioaka Ryosyu  
富岡 量秀



Ogawa Harumi  
小川 晴美  
Kawakita Noriko  
川北 典子

## プロジェクトデータ

- 📍 京都市北区
- 🤝 京都市楽只保育所(北区)
- 📅 2020年10月7日、14日、21日、28日 / 11月4日、11日
- 🎓 教育学部 教育学科幼児教育コース おおたにキッズキャンパス演習Ⅲ、幼児教育演習Ⅲ
- 👥 教育学部 教育学科幼児教育コース 第3学年14名(うち2名短期大学部幼児教育保育科から編入)

## プロジェクト概要

子育て世帯がたくさん暮らす住宅街という側面を持つ北区。京都市及び北区は子育て政策として、子育て中の保護者の不安や疑問を解消し、地域で孤立しないよう、地域の人たちとの仲間づくりや交流活動を推進している。

大谷大学教育学部教育学科幼児教育コースではこれらを将来保育士や幼稚園教諭など、保育者を目指している学生たちの実践的な学びの機会—とくに近年保育者として必要とされている子育て支援・保護者支援の実践力を身につける学びの機会—として捉え、またそれが同時に地域貢献を実現する試みとして「子ども・子育てプロジェクト」に取り組んでいる。

2020年度の具体的な活動としては、新型コロナウイルスの影響により以下の事業を展開した。

### 1) いないいないばあ教室

京都市の子育て支援事業である「いないいないばあ教室」を京都市子育て支援事業の北区の拠点園である京都市楽只(らくし)保育所と共同で半期6回実施した。実施にあたっては、大谷大学への入構が基本的に教職員と在校生のみに制限されたということから、楽只保育所での実施となった。また学生の参加も人数を制限し、京都市から各回3名までとなった。

また例年活動していた、北区の「地域子育て支援ステーション」である紫明幼稚園・のぞみ保育園と連携し子育て相談や子育て講座・園庭開放等に取り組む「あかちゃんこちゃんサロン」は、本年度は中止となった。

### 2) 赤ちゃんと保護者を「つなぐ」動画配信

大谷大学を会場に開催されていた北区の事業「つながるフェスタ」における「はぐくみ広場」は、対面での実施は中止となった。その代替として主催者側からの依頼があり、学生による赤ちゃんと保護者を「つなぐ」ためのふれあい遊びや手遊びなどの動画配信を教育学部教育学科幼児教育コース3年生全員で取り組んだ(この取り組みに関しては、地域連携事業としてではなく小川晴美先生の科目「保育相談支援」で対応した)。

## 活動内容と成果

本年度に関しては、上記の事業のみの実施となった。例年取り組んでいるその他の事業も前述したような対応となった。「つながるフェスタ」における「はぐくみ広場」の代替の取り組みに関しては、来年度の状況にもよるが、北区と連携しながら地域連携事業として展開できるよう進めていきたい。



# メディア掲載

今年度は、「中川学区の暮らし再発見プロジェクト」を中心にメディア掲載がありました。



北国新聞 (2020年6月25日付朝刊)「町おこしに地ビール 京都のNPO 白山の施設参考に」



リビング京都 (2020年7月15日号) 特集「京都とビール」

## 中川学区の情報発信プロジェクト「and house.」

中川学区の住民の皆様と大谷大学志藤修史教授のゼミ生が交流し、「中川という地域を知ってもらい、訪れてほしい」という思いのもと、地域活性化に取り組む「and house.」事業。昨年度より、地域に昔から自生する「まんま茶®」を使用したビール「京都・中川まんまビール！」を製造・限定販売することで、中川の新たな魅力を創出・発信しています。

### 学生さんにインタビュー

コロナ禍における今年度の取組を教えてください  
地域を訪問できない期間は、自分たちの取組の目的等を改めて見つめ直し、「まんまビール！」を通して中川を知り、来訪のきっかけになってほしい、とチームで話していました。出来上がったビールが幸いなことに完売となり、現在第2弾を醸造し、販売中です。多くの方に手に取っていただき、中川という地域を知っていただきたいです。

### 今後の事業展望を教えてください

「まんま茶®」の茶の木はツバキ科のため、実からは良質な油を採ることができます。その油を使って、中川を知るきっかけとなる商品を新たに開発したいと意気込んでいます。

問合せ 大谷大学 地域連携室 ☎411-8015



志藤教授とゼミ生のみなさん



↑活動の詳細はこちら

市民しんぶん北版 (2021年1月15日号)「中川学区の情報発信プロジェクト「andhouse.」

## 「京都市ふるさと納税」で、大谷大学の地域連携をご支援ください！



2021年3月、大谷大学は、ふるさと納税を活用して「大学のまち・学生のまち京都」の魅力発信に取り組むため京都市と連携協定を締結いたしました。これにより、京都市へのふるさと納税による応援メニューに本学での取り組みも含む「大学・学生と地域の連携促進事業」が新たに加わり、いただいた寄付が活用されます。

なお、京都市のふるさと納税の返礼品には、本学卒業生の松尾浩久氏が運営し「中川学区の暮らし再発見プロジェクト」(P5)で連携している「西陣麦酒」のクラフトビールもあります。醸造時期によっては、学生が収穫した茶葉で製造した「京都・中川まんまビール！」も返礼品にラインアップされるかもしれませんが、ぜひご期待ください！



京都市 HP「ふるさと納税寄付金について」はこちら

# 情報発信

## 大谷大学オフィシャルWebサイト 地域連携室(コミュ・ラボ)



地域連携室及び地域連携プロジェクトに関する基本情報をご覧ください。

また、「大谷大学地域連携室事業報告書」のバックナンバーもダウンロードできます。



## 大谷大学地域連携室オフィシャルFacebook



地域連携プロジェクトの日々の活動の様子や地域連携室主催事業のお知らせなどを発信しています。



instagram  
twitterでも  
情報発信中!

## お問合せ

### ◆本報告書に掲載するプロジェクトに関することや地域連携に関するご相談などについて

大谷大学響流館1階 大谷大学地域連携室

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学響流館1階

Tel:075-411-8015 Fax:075-411-8162

mail:commu-labo@otani.ac.jp

開室時間 月曜日～金曜日 9時～11時30分/12時30分～17時

\*事務休止日を除く

### ◆ボランティア募集の学内掲示に関するご相談について

大谷大学慶間館1階 大谷大学学生支援課

Tel:075-411-8119

開室時間 月曜日～金曜日 9時～13時/14時～17時

\*事務休止日を除く

ボランティアの内容、実施期間などによって、掲示をお断りする場合があります。

## コミュニティメディアプロジェクト

### ◆コミュニティラジオ番組「大谷大学ハッピーアワー」

FM87.0Mhz 毎週19時～放送中です。聴取エリア、聴取方法の詳細はRADIO mix KYOTOのWebサイトをご参照ください。放送に合わせて、「大谷大学ハッピーアワー」オフィシャルFacebook及びTwitterでも情報発信中です。

RADIO mix KYOTOの番組ページから「大谷大学ハッピーアワー」のバックナンバーをお聞きいただけます。お聞きになりたい放送日のタイトルを選択し、開いたページから「MP3」を再生してください。



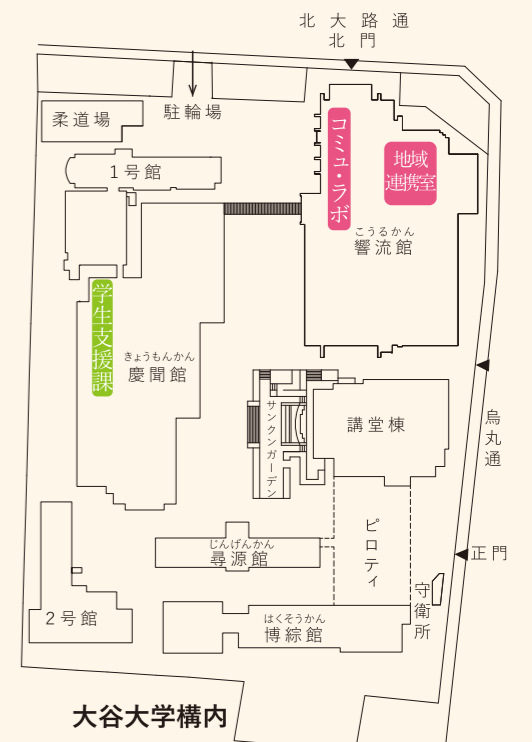
大谷大学ハッピーアワー 検索



### ◆Webサイト・フリーペーパー「キタキタ！」

キタ区キタ大路のリトルプレスとして、ステキなお店、地域イベントなどを取材・紹介しています。Web サイトはスマホに対応しています。烏丸北大路へお出かけの際はぜひご利用ください。フリーペーパー「キタキタ」は、大谷大学響流館1階地域連携室にて配布しているほか、北区役所、北区内の飲食店などでも配布しています。その他配布場所はWebサイト「キタキタ」にてご確認ください。配布にご協力いただける方を募集中です。ご協力いただける方は、地域連携室までご連絡いただけますよう、お願いいたします。

大谷大学 キタキタ 検索



大谷大学構内